

豪華な文化

縄文時代中期(約5千年から約4千年前)の北陸から関東地方にかけては、縄文土器の中でも最も豪華な装飾をつけた土器である火焔土器かえんがあります。以前、10円はがきのデザインにも用いられていました。

このころ九州では、それとは異なる阿高式系あたかの土器が作られていました。この土器は九州の縄文土器の中でも最も文様が目立つもので、太い凹線を組み合わせて渦巻きのような曲線の文様をつけるのが特徴です。また、粘土中に滑石を混ぜたものもみられ、焼色が赤黒い色をしています。土器の底面には土器作りの台として使用した鯨の脊椎骨の跡形が残っているものがよくあります。土器の形や文様などは関東地方とは全く異なっていますが、豪華な文様で飾る点では似ています。生活の基盤となる文化は違っていても、同時代の土器としての共通点があるようです。

この阿高式系土器は、志佐町楼厩田遺跡、星鹿町姫神社遺跡、御厨町小嶋遺跡、鷹島町三代遺跡みよなど海岸部に近い遺跡から出土しています。



小嶋遺跡出土の阿高式系土器

Good-bye Matsuura さようなら 松浦

8月で松浦を離れる4人のALTの先生のお別れの言葉を紹介いたします。



松浦市の皆さんが私をあたたかく受け入れてくれたので、素晴らしい時間を過ごすことができました。アメリカに帰って、みんなにこの経験を話すのが楽しみです。これからの幸せとさらなる冒険を楽しみにしています。ありがとうございました。
ブリティーナ・シーボーグ



松浦市の皆さん、故郷を離れた私の「home(我が家)」となってくれてありがとうございました。私はここで楽しく生活できました。特に、鷹島の皆さんはこの1年間私にとっても優しくしてくれました。ここでの思い出をこれからも大切にしていきたいです。
ブルック・ボイヤー



輝く海や美しい山々を見れなくなると思うと寂しいです。松浦で、これからも決して忘れることのできない多くの友達がありました。松浦で過ごした時間はとても実りの多いものでした。いつかまた戻ってきたいと思います。5年間本当にありがとうございました。
ウォルター・スミス



私はこの夏、アメリカに帰って結婚します。松浦の皆さんにお別れをいうのは、悲しいです。松浦は、私の日本の故郷です。ここで過ごした時間と、出会った人のことは忘れません。皆さん、ありがとうございました。
バレリー・ブラック